

高校生活と 進路に関する調査

東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所
共同研究「子どもの生活と学び」研究プロジェクトでは、2015年3月～4月上旬に、高校3年生を対象に、「高校生活と進路に関する調査」を行いました。この調査で明らかにしたのは次のことです。

- ・高校3年生は、学習や生活でどのような経験や体験をしてきたのか。
- ・どのようなプロセスを経て、進路選択をしているのか。
- ・将来に対してどのようなイメージを持っているのか。
- ・自分自身の「自立」の状況をどのように評価しているのか。

このダイジェスト版では、高校3年生の学習や生活、進路選択に関する主なデータを紹介するとともに、主体的な進路選択に必要なことは何かを探ります。

調査概要

◆調査テーマ 高校3年生の学習や生活、進路選択についての意識と実態

◆調査方法 郵送法による自記式質問紙調査

◆調査時期 2015年3月～4月上旬

◆調査地域・対象

全国の高校3年生(2015年3月時点)

配布数：735 有効回収数：483 有効回収率：65.7%

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 共同研究「子どもの生活と学び」研究プロジェクトの調査モニター対象。

◆調査項目

学校の授業での経験／勉強時間／成績／高校生になってからの知的経験や体験／様々な活動の取り組み状況／4月からの進路／進路を意識した時期／進路決定の参考にしたこと／進路決定に影響した人／進路選択時の悩み／大学でしたいこと／大学受験に対する考え／入試方法／希望した進路の実現度／進路選択における主体性／高校生活の振り返り／将来展望／「自立」に対する高校生の自己評価など

分析やデータを読み取る際の注意点

① 回答者483名のうち300名(62.1%)が、4月からの進路を「四年制大学に進学(医学、歯学など六年制課程や海外の大学を含む)」と回答しており、公的統計と比べて大学進学率が高い。そのため、全体データの掲載は最小限にとどめ、進路別などの分析を中心にした。

② 高校の学科別の分析

- ・普通科については、回答者が記入した学校名をもとに偏差値を特定し、3グループに分類した(学校名が無回答・不明の場合は除いている)。高校偏差値52以上を「普通科Aグループ」、高校偏差値45～52未満を「普通科Bグループ」、高校偏差値45未満を「普通科Cグループ」としている。高校偏差値は、「進研模試」2014年度3年6月回を使用。
- ・専門・総合学科は、「工業科」「商業科」「総合学科」を合わせている。「その他」は除いている。

③ 大学の偏差値帯別の分析

- ・4月からの進路について、「四年制大学に進学(医学、歯学など六年制課程や海外の大学を含む)」を選んだ回答者については、回答者が記入した大学・学部・学科名をもとに大学偏差値を特定し、3グループに分類した(無回答・不明は除いている)。大学偏差値65以上を「四年制大学(偏差値65以上)」、大学偏差値55～65未満を「四年制大学(偏

差値55～65未満)」、大学偏差値55未満を「四年制大学(偏差値55未満)」としている。大学偏差値(入試難易度)は、2014年度第3回ベネッセ・駿台マーク模試・11月(A判定基準[合格可能性80%以上])を使用。

④ 進路別の分析をする際、「短期大学に進学」「その他」「卒業後どうするか決まっていない」を選んだ回答者は人数が少ないため、図表から省略している。また「正社員・正職員として就職」「正社員・正職員以外の就職」の回答を合わせて、「就職」としている。

⑤ 「四年制大学に進学(医学、歯学など六年制課程や海外の大学を含む)」は本文中では、「四年制大学に進学」と示している。

⑥ 「大学等の進学準備(受験浪人、予備校への進学を含む)」は本文中では「大学等の進学準備」と示している。

⑦ 本文中では高校3年生を「高3生」と示している。

⑧ 図表において、有効回収数すべてを集計している場合は、人数を示していない。

⑨ 図表で使用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出している。四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。

基本属性

①性別



②通っている高校(設置区分)



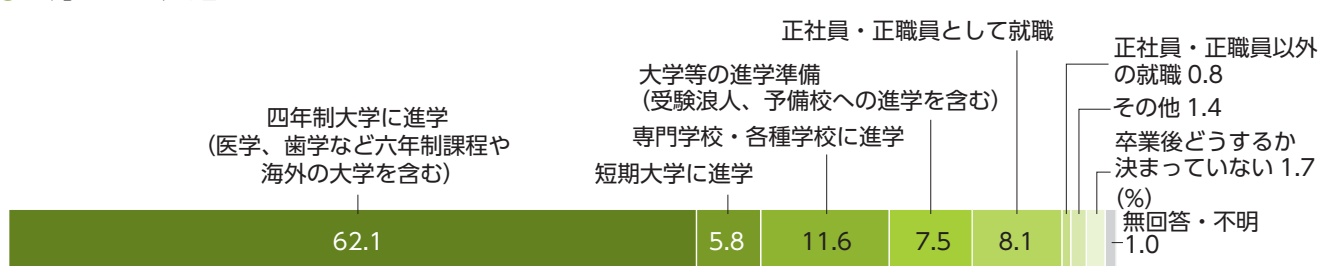
③通っている高校(課程)



④通っている高校(学科)



⑤4月からの進路



目次

調査概要	2	④進路選択時の悩み	11
基本属性	3	⑤大学でしたいこと	12
1. 高校での学びや生活		⑥大学受験に対する考え	13
①学校の授業での経験	4	⑦希望した進路の実現度	14
②勉強時間	5	⑧進路選択における主体性	15
③知的経験や体験	6	3. 高校生活の振り返り	16
④様々な活動の取り組み状況	7	4. 将来展望	17
2. 進路選択		5. 高校生の「自立」	18
①進路を意識した時期	8	調査企画・分析メンバー	20
②進路決定の参考にしたこと	9		
③進路決定に影響した人	10		

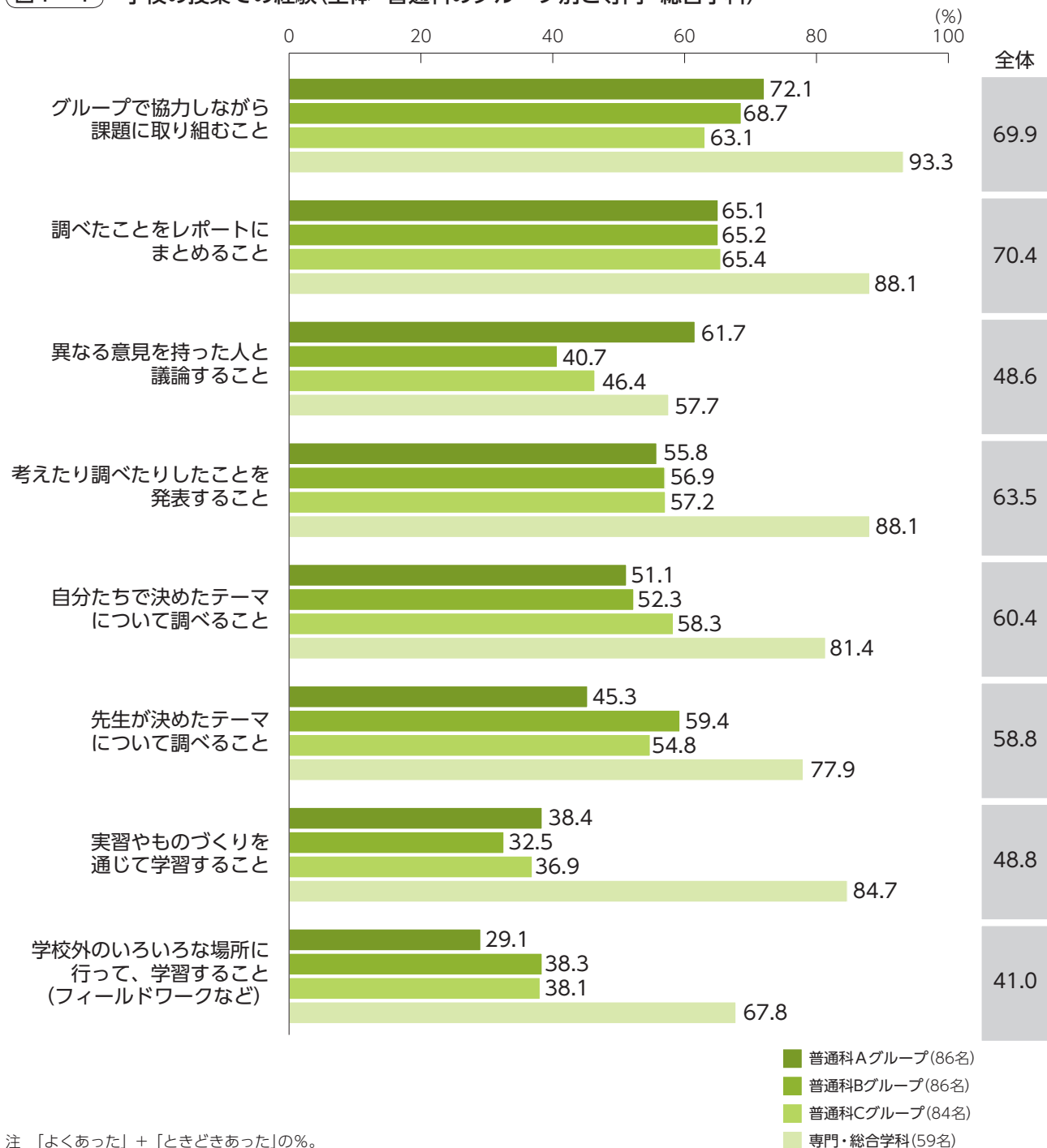
① 学校の授業での経験

6割以上は「グループで協力しながら課題に取り組む」授業を経験

普通科に比べ、専門・総合学科は、「調べる」「まとめる」「発表する」といったアクティブな授業を多く経験している。また普通科のグループ別の特徴をみると、Aグループは「異なる意見を持った人と議論すること」に「あった」（「よくあった」+「ときどきあった」、以下同様）と回答した割合が高い(61.7%)。BグループとCグループは「先生が決めたテーマについて調べること」(Bグループ59.4%、Cグループ54.8%)を経験している割合が相対的に高い。学科や普通科のグループによって、授業経験は異なる。

Q 高校生になってから、学校の授業で次のようなことがどれくらいありましたか。

図1-1 学校の授業での経験(全体・普通科のグループ別と専門・総合学科)



注 「よくあった」+「ときどきあった」の%。

② 勉強時間

普通科では「学校の宿題以外の勉強時間」が「宿題時間」より長い。一方、専門・総合学科はほぼ同じくらいである

学校の宿題をする時間は、普通科全体と専門・総合学科との間に差があまりない。一方、学校の宿題以外の勉強をする時間をみると、次の2つの特徴がある。1つは普通科が専門・総合学科より1時間21分長いこと、もう1つは普通科の中で、Aグループ(2時間32分)がCグループ(1時間32分)より1時間も長いことである。

Q

あなたは高校3年生の9月頃、学校がある日に次の勉強(学校の時間は除く)を、1日にどれくらいしていましたか。

図1-2 勉強時間(普通科のグループ別と専門・総合学科)

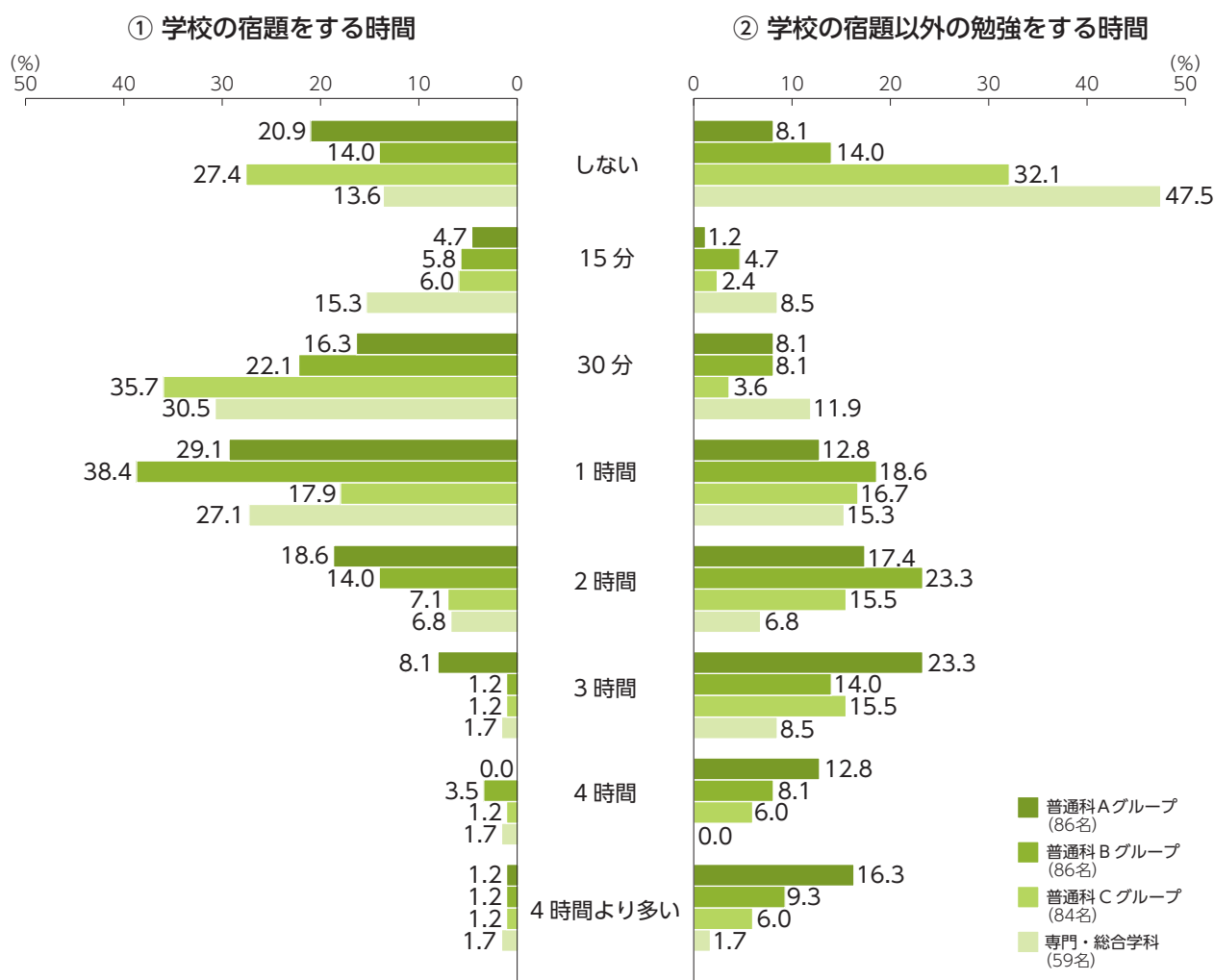


表1-1 平均勉強時間(普通科と専門・総合学科)

	学校の宿題をする時間	学校の宿題以外の勉強をする時間
普通科全体	54分	2時間4分
普通科Aグループ	1時間4分	2時間32分
普通科Bグループ	1時間1分	1時間55分
普通科Cグループ	40分	1時間32分
専門・総合学科	49分	43分

注1 「学校の宿題以外の勉強をする時間」は学習塾の時間を含む(図1-2②、表1-1)。

注2 「無回答・不明」は図から省略した(図1-2①②)。

注3 平均勉強時間は、「しない」を「0分」、「15分」を「15分」、「4時間より多い」を「5時間」のように置き換えて、無回答、不明を除いて算出した(表1-1)。

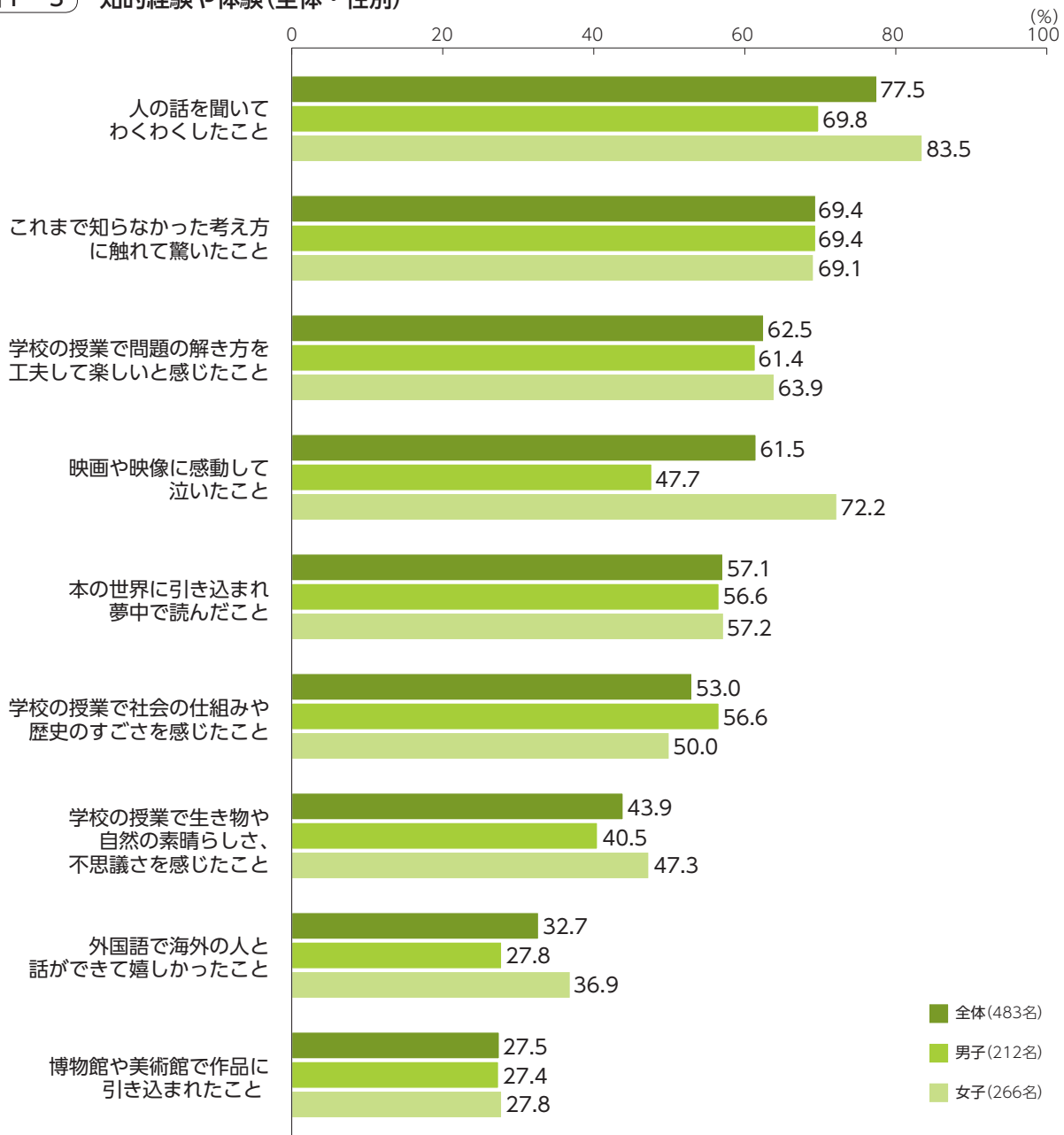
③ 知的経験や体験

「これまで知らなかった考え方に触れて驚いた」経験があった高3生は7割

高校生になってからの知的経験や体験をたずねると、多くの項目で、「あった」（「たくさんあった」＋「ときどきあった」、以下同様）の回答は5割を超え、高校生になってから様々な知的経験や体験をしたことが分かる。また、性別による経験の違いがみられ、全般的に女子のほうが「あった」と回答した割合が高い。とくに女子のほうが高いのは「映画や映像に感動して泣いたこと」（24.5ポイント差）、「人の話を聞いてわくわくしたこと」（13.7ポイント差）。男子のほうが明らかに高いのは「学校の授業で社会の仕組みや歴史のすごさを感じたこと」（6.6ポイント差）のみである。

Q 高校生になってから、次のような経験や体験がどれくらいありましたか。

図1-3 知的経験や体験(全体・性別)



注 「たくさんあった」＋「ときどきあった」の%。

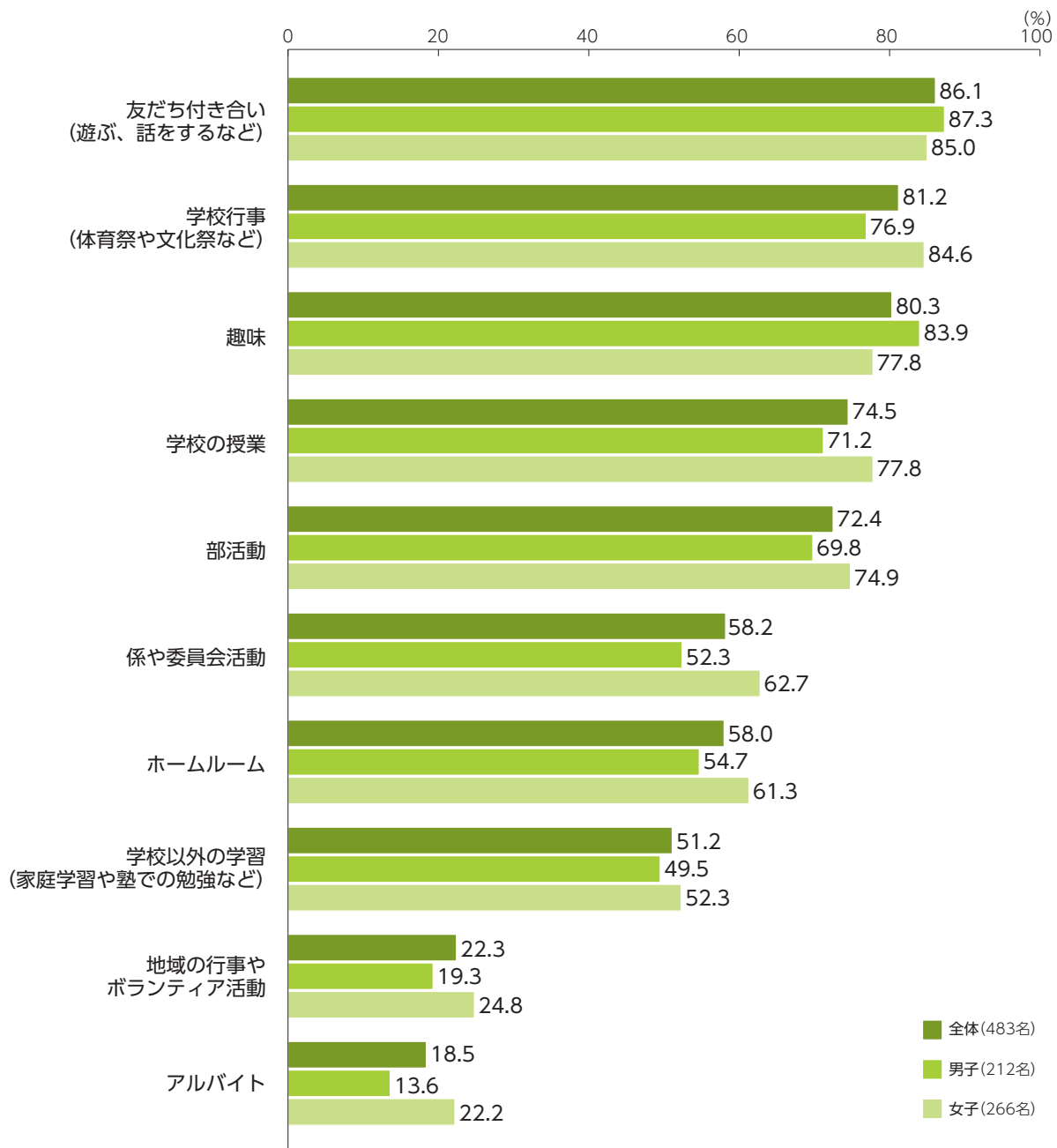
④ 様々な活動の取り組み状況

86%の高3生が「友だち付き合い」に積極的に取り組んだと回答

「学校の授業」や「学校行事」、「係や委員会活動」、「友だち付き合い」といった活動に「積極的」（「とても積極的」+「まあ積極的」、以下同様）に取り組んだ高3生は5割～8割台である。一方、「地域の行事やボランティア活動」や「アルバイト」は2割前後である。性別にみると、全般的に女子のほうがより様々な活動に「積極的」に取り組んでいることが分かる。とくに「係や委員会活動」では女子は男子より10.4ポイントも高い。一方、「趣味」は男子のほうが6.1ポイント高い。

Q あなたは高校生活において、次のことにどれくらい積極的に取り組みましたか。

図1-4 様々な活動の取り組み状況(全体・性別)



注1 「とても積極的」+「まあ積極的」の%。

注2 「部活動」「係や委員会活動」「アルバイト」は「していない」を含め、有効回収数から%を算出。

① 進路を意識した時期

2. 進路選択

4割以上が中学生までに高校卒業後の進路(就職か進学か)を意識

「自分が文系向きか理系向きか」「高校卒業後に就職するか進学するか」については4割以上が、「どのような職業に就くか」については3割以上が、中学生までに意識している。一方で、それらを「意識したことはない」という高3生も1~2割弱いる。進路別にみると、就職する高3生の3割は、高校2年生のときに「就職するか進学するか」を意識している。一方で、四年制大学(偏差値65以上)に進学する高3生の約4割は「意識したことはない」と回答している。

Q あなたが次のことを最初に意識したのはいつですか。

図2-1 進路を意識した時期(全体)

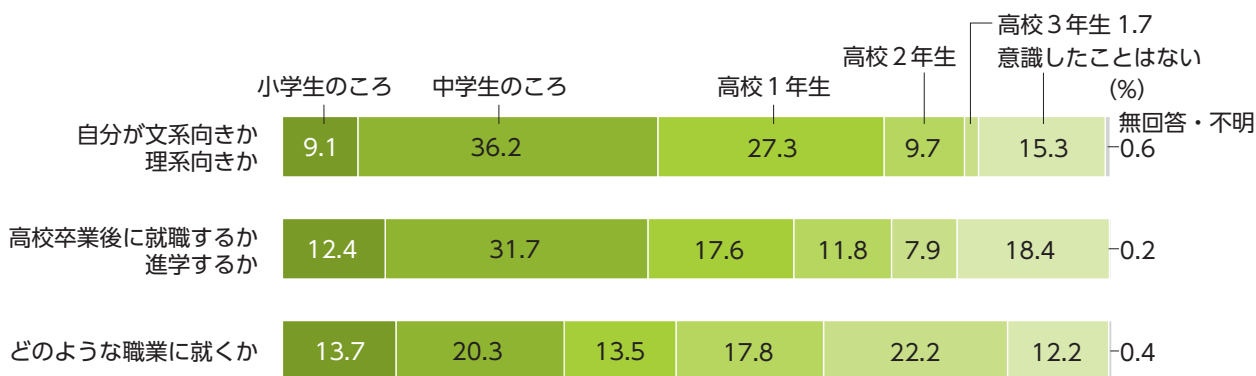
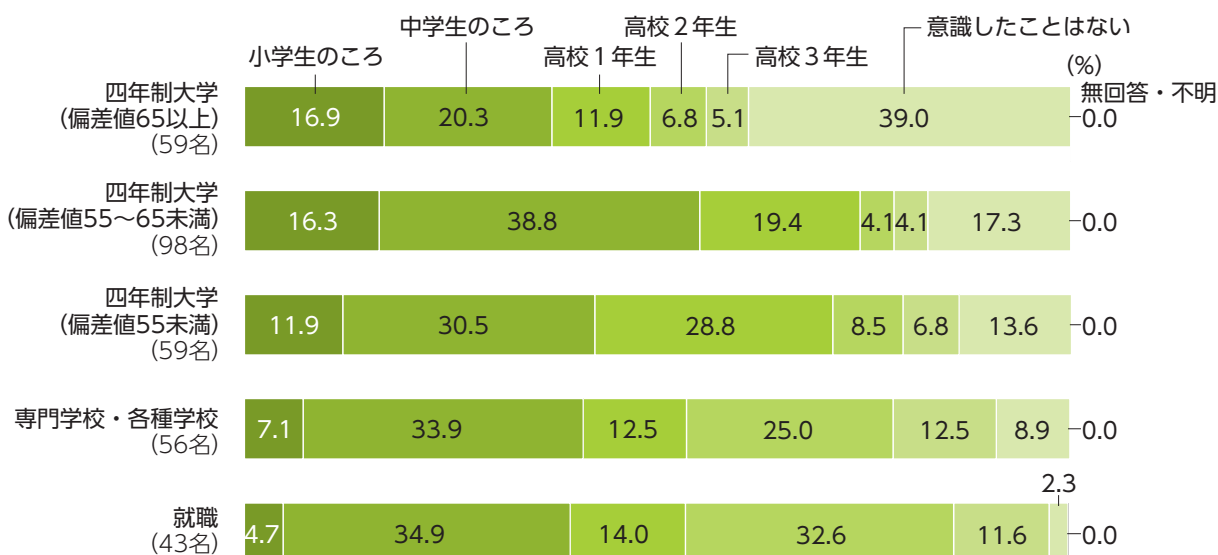


図2-2 「高校卒業後に就職するか進学するか」を意識した時期(進路別)



② 進路決定の参考にしたこと

四年制大学進学の高3生は「自分の成績」を、専門学校・各種学校進学と就職の高3生は「将来就きたい仕事」をもっとも参考にしている

四年制大学(偏差値65以上、偏差値55～65未満)に進学する高3生は、四年制大学(偏差値55未満)の高3生に比べて、「卒業後の進学・就職の実績」「大学・学校の偏差値が高いこと」「建学の理念や校風」を進路決定の参考にしている。また、専門学校・各種学校に進学する高3生は「将来就きたい仕事」「卒業後の進学・就職の実績」「資格や免許が取れること」などを、就職する高3生は「(将来)就きたい仕事」「就職先の雰囲気」「経済的な負担の少なさ」などを進路決定の参考にしている。

Q 4月からの進路を決める際に、次のことをどれくらい参考にしましたか。

表2-1 進路決定の参考にしたこと(進路別)

(%)

	四年制大学 (偏差値65以上) (59名)	四年制大学 (偏差値55～65 未満)(98名)	四年制大学 (偏差値55未満) (59名)	専門学校・ 各種学校 (56名)	就職 (43名)
自分の成績	① 79.7	① 89.8	① 83.0	57.1	60.5
卒業後の進学・就職の実績	① 79.7	② 78.5	⑤ 59.3	② 85.7	
将来就きたい仕事	③ 76.3	③ 76.5	② 76.3	① 91.1	① 81.4
大学・学校の偏差値が高いこと	③ 76.3	⑤ 72.5	42.4	17.9	
カリキュラムや授業の内容	⑤ 64.4	③ 76.5	④ 62.7	④ 78.5	
通学(通勤)のしやすさ	54.2	54.1	⑤ 59.3	67.8	⑤ 72.1
建学の理念や校風	52.5	57.2	33.9	⑤ 69.6	
資格や免許が取れること	50.8	71.4	③ 64.4	③ 84.0	55.8
経済的な負担の少なさ	49.1	61.2	54.2	67.8	③ 74.5
部活動やサークル活動の経験	22.1	29.6	25.5	25.0	53.5
就職先の雰囲気					① 81.4
就職先の実績					④ 74.4
就職先の知名度や評判					69.8
就職先の規模					67.4

注1 「とても参考にした」+「まあ参考にした」の%。

注2 グレーのアミカケの項目は尋ねていない。

注3 進路ごとに、上位5位の順位(①～⑤)を示している。

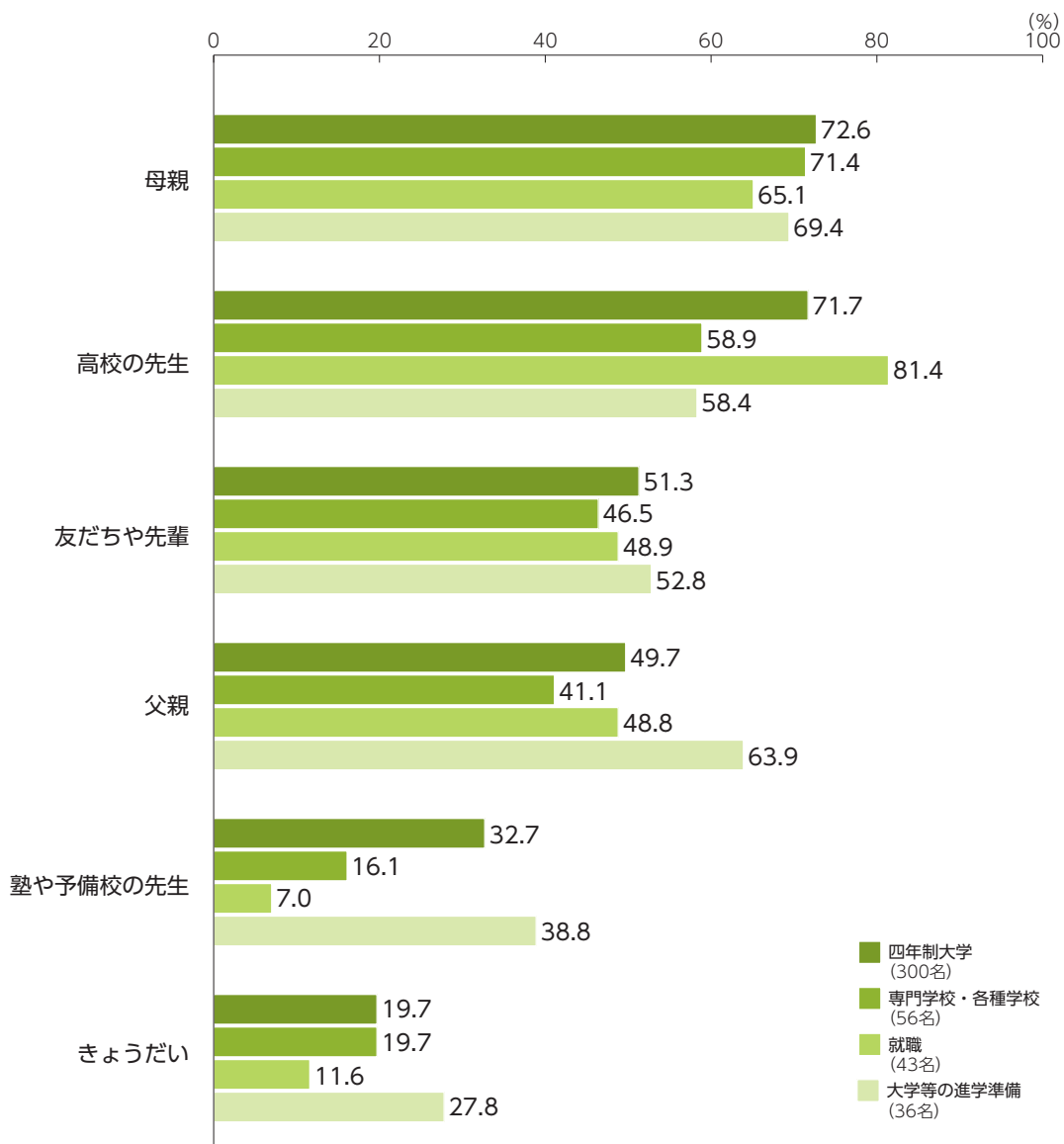
③ 進路決定に影響した人

進学する高3生は「母親」、就職する高3生は「高校の先生」の影響が大きい

高3生が進路を決める際に、意見やアドバイスで影響を受けたのは、「母親」や「高校の先生」の割合が高く、4月からの進路に関わらず半数以上が「影響した」（「とても影響した」+「まあ影響した」、以下同様）と回答している。とくに、4月から就職する高3生は「高校の先生」の影響を受けたと回答する割合が高い（81.4%）。学校での進路指導や就職先の紹介など、就職における「高校の先生」の影響の大きさが読み取れる。

Q 4月からの進路を決める際に、次の人の意見やアドバイスはどれくらい影響しましたか。

図2-3 進路決定に影響した人(進路別)



注 「とても影響した」+「まあ影響した」の%。

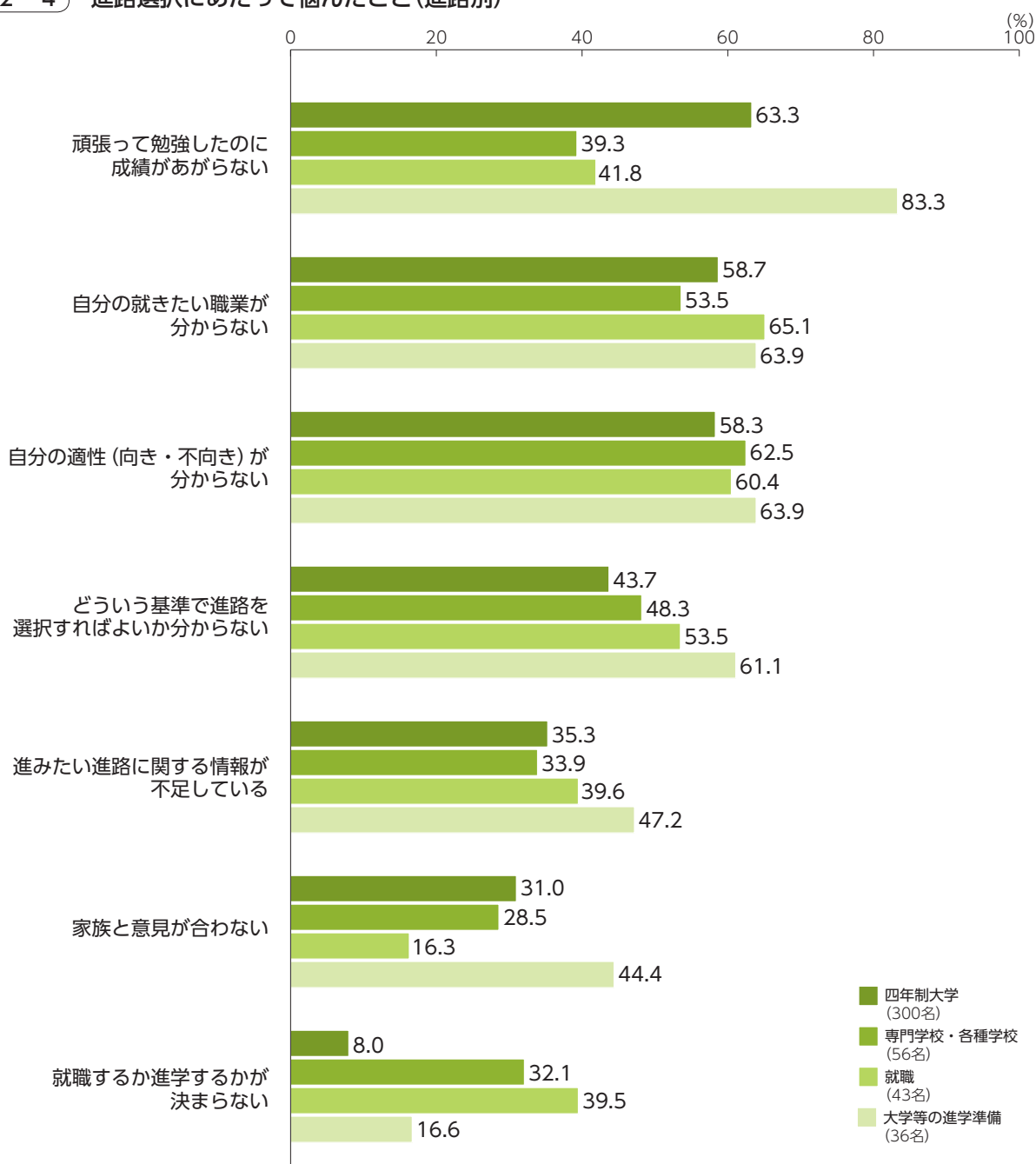
④ 進路選択時の悩み

進路に関わらず、半数以上の高3生が「就きたい職業」や「自分の適性」について悩んだことがある

進路選択にあたっては、「自分の就きたい職業が分からない」「自分の適性(向き・不向き)が分からない」などで悩んだことが「あった」(「よくあった」+「ときどきあった」、以下同様)と回答する割合が高く、どの進路を選んでも半数以上が悩んだことがある。また、4月から「大学等の進学準備」を行う高3生は、他の進路の高3生よりも悩んだことがある割合が高い項目が多い。とくに「頑張っても成績があがらない」(83.3%)、「家族と意見が合わない」(44.4%)は他の進路の高3生との差が大きい。

Q あなたは進路選択にあたって、次のことに悩んだことがありましたか。

図2-4 進路選択にあたって悩んだこと(進路別)



注 「よくあった」+「ときどきあった」の%。

⑤ 大学でしたいこと

四年制大学・短期大学進学者の多くが、大学での学びや活動に期待を寄せている

大学・短期大学では「将来の仕事や就職に役立つような力を身につけたい」「専攻する分野について深く学びたい」など、多くの項目で9割前後がしたい(「とてもあてはまる」+「まああてはまる」、以下同様)と考えている。一方で、「大学で何に力を入れるかこれから考えたい」と回答している高3生も7割である。進学する大学偏差値別にみると、「友人をつくり、よい人間関係を広げたい」「部活動・サークルなど課外活動に力を入れたい」については、偏差値の高い四年制大学に進学する高3生のほうがしたいと考えている。

Q あなたが進学先の大学に入学するにあたって、次のことはどれくらいあてはまりますか。

図2-5 大学でしたいこと

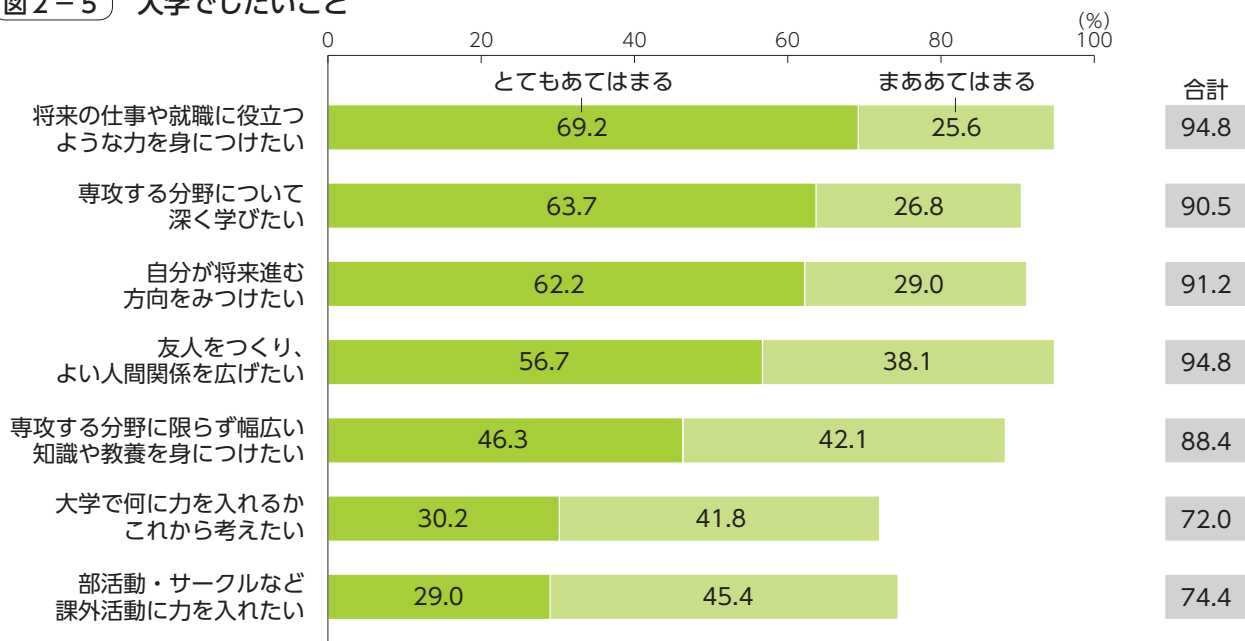


図2-6 「友人をつくり、よい人間関係を広げたい」(大学偏差値別)

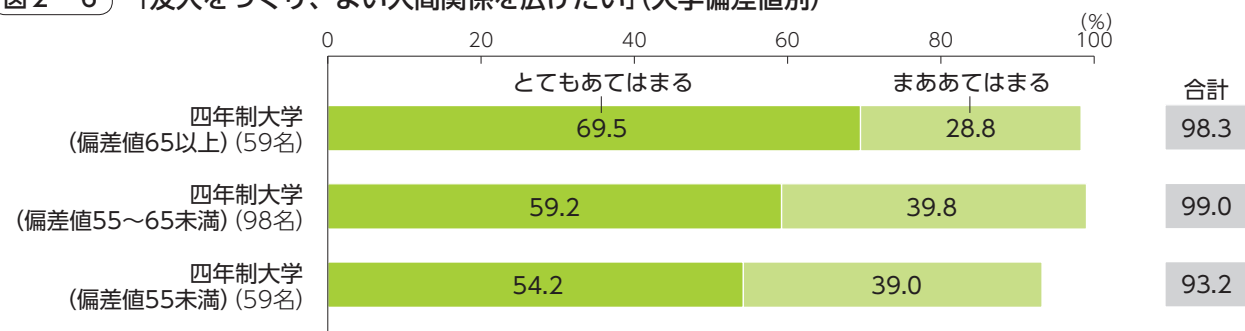
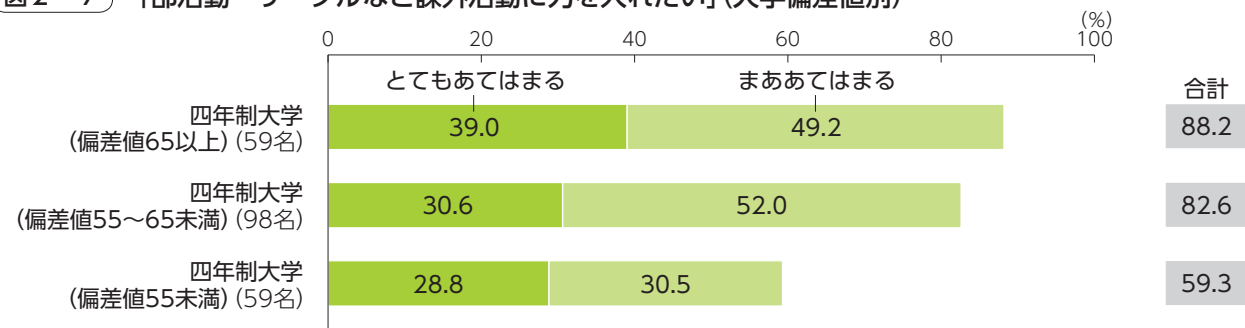


図2-7 「部活動・サークルなど課外活動に力を入れたい」(大学偏差値別)



注 4月からの進路について、「四年制大学に進学」「短期大学に進学」を選んだ回答者のみに尋ねた(図2-5~図2-7)。

⑥ 大学受験に対する考え

大学受験を「成長の機会だった」と思う大学進学者は8割

自分の大学受験について、8割の高3生が「成長の機会だった」（「とてもそう思う」＋「まあそう思う」、以下同様）と感じている。入試方法別にみると、「一般入試」「一般推薦」の高3生は、「指定校推薦」の入試を受けた高3生に比べて「成長の機会だった」と考える割合が高い（9割弱）。大学受験に対しては、7割以上が「入試では学力だけでなく多様な能力を評価すべきだ」と考えている。一方、学力以外の能力も評価していると思われる推薦入試については、5割以上が「推薦よりも一般入試で自分の力を試したほうがよい」と考えている。

Q あなたは大学受験について、どう思いますか。

図2-8 あなたにとっての大学受験

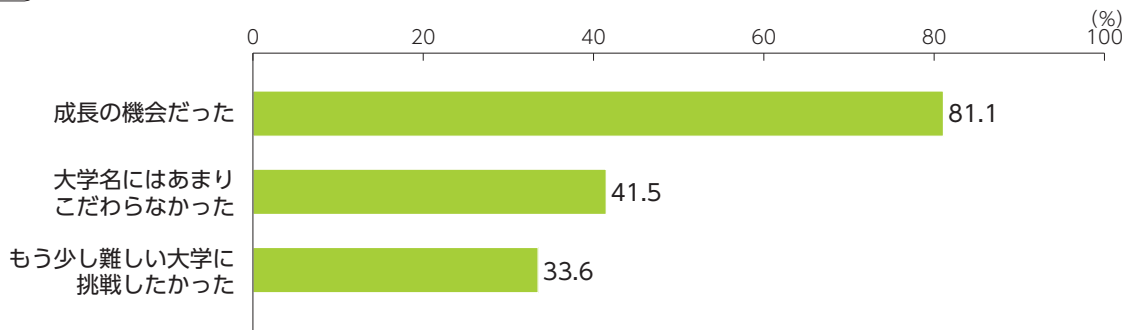


図2-9 大学受験は「成長の機会だった」（入試方法別）

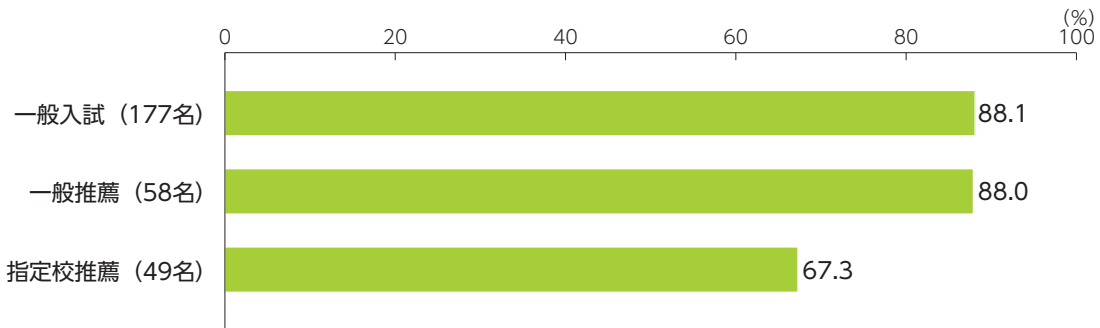
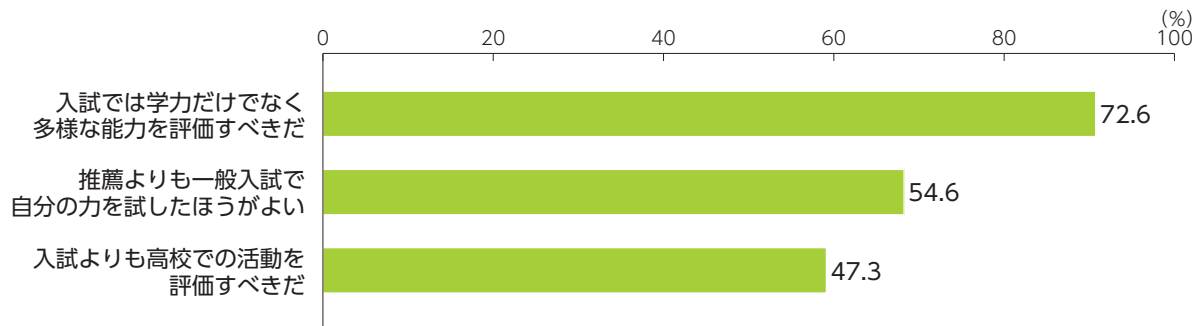


図2-10 大学受験に対するあなたの考え



注1 4月からの進路について、「四年制大学に進学」「短期大学に進学」を選んだ回答者のみに尋ねた（図2-8～図2-10）。

注2 「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の%（図2-8～図2-10）。

注3 「一般入試」には大学入試センター試験の利用を含む。「AO入試」、「附属校からの進学」、「その他」、「試験はなかった」については省略している（図2-9）。

⑦ 希望した進路の実現度

四年制大学進学者の36%が「他に行きたい進学先や就職先があった」と回答

4月からの進路をどれくらい希望していたかを尋ねたところ、3割が「他に行きたい進学先や就職先があった」と回答している。進路別にみると四年制大学進学者で36.0%とその割合は高い。また入試方法別にみると、「AO入試」や「一般推薦」「指定校推薦」の場合には「もっとも希望していた進学先や就職先だった」と回答した割合は7割弱～9割弱と高くなっているが、「一般入試」の場合は4割と低く、約5割が「他に行きたい進学先や就職先があった」と回答している。

Q この4月からの進路について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

図2-11 希望した進路の実現度(全体)



図2-12 希望した進路の実現度(進路別)

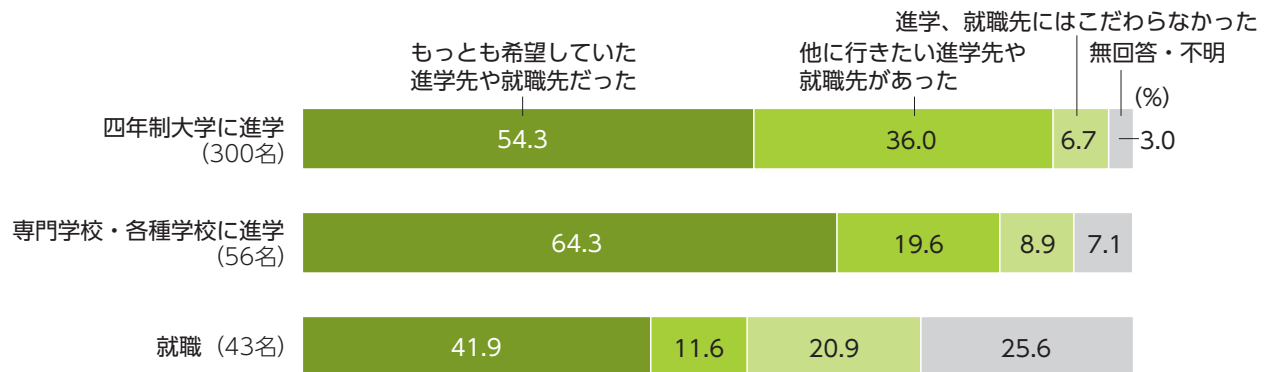
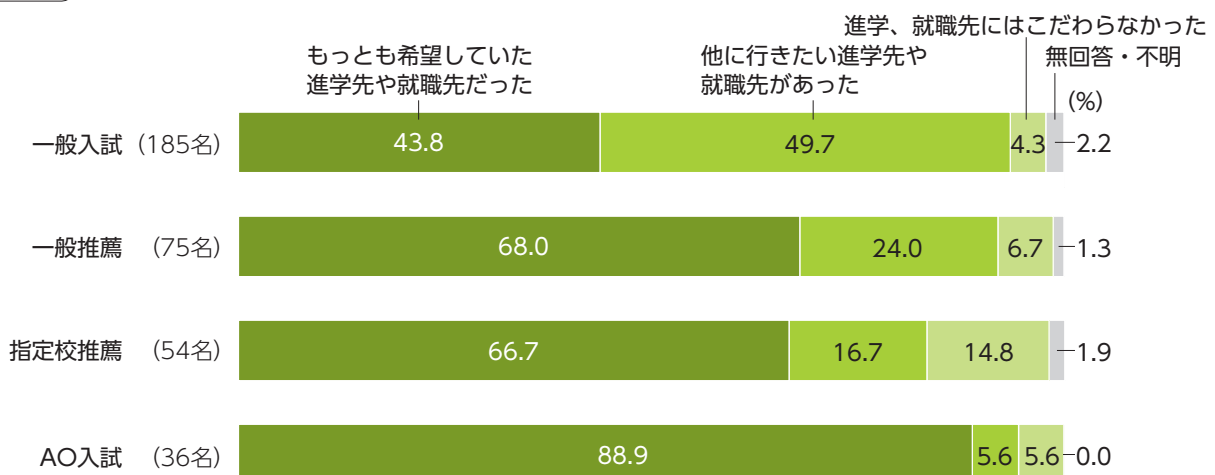


図2-13 希望した進路の実現度(入試方法別)



注 「一般入試」には大学入試センター試験の利用も含む(図2-13)。

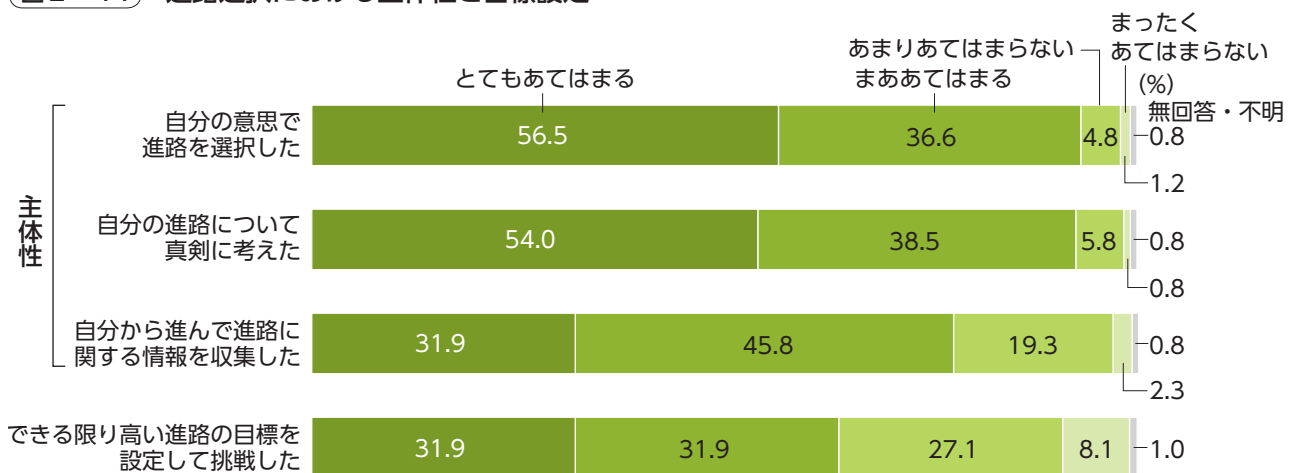
⑧ 進路選択における主体性

主体的に進路を選択した高3生は、より早い時期から就きたい職業を意識している

高校卒業後の進路選択における主体性や目標設定の高さについて尋ねたところ、「とてもあてはまる」の割合は3～5割台、「まああてはまる」を含めると6～9割台であった。また進路選択における主体性を3群に分けたところ、「進路選択主体性・高群」の高3生は早い時期から「どのような職業に就くか」を意識する傾向がみられた。逆に「進路選択主体性・低群」の高3生は、就きたい職業を「意識したことはない」と回答した割合が高い。

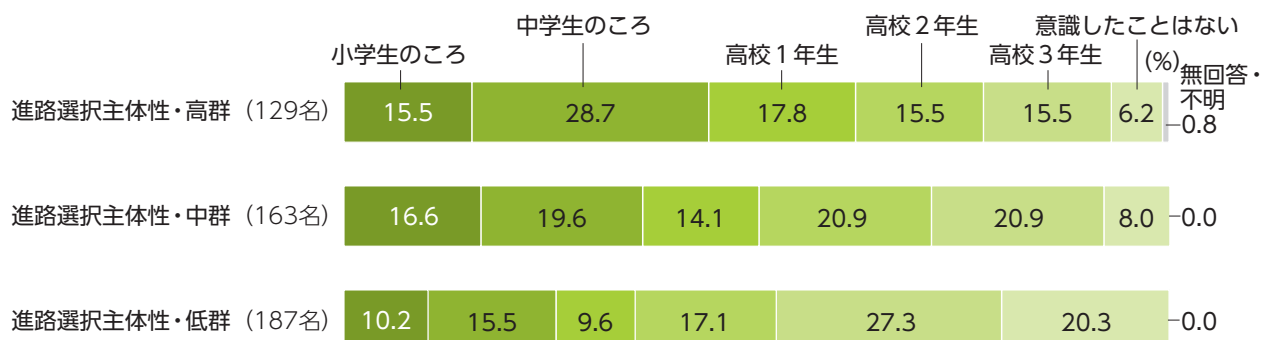
Q あなたが進路を決めるにあたって、次のことはどれくらいあてはまりますか。

図2-14 進路選択における主体性と目標設定



Q あなたが「どのような職業に就くか」を最初に意識したのはいつですか。

図2-15 「どのような職業に就くか」を意識した時期(全体・進路選択における主体性別)



注 図2-14に示した項目のうち「自分の意思で進路を選択した」「自分の進路について真剣に考えた」「自分から進んで進路に関する情報を収集した」の3項目について、「とてもあてはまる」を4点～「まったくあてはまらない」を1点として合計得点を算出し、「進路選択主体性・高群」「進路選択主体性・中群」「進路選択主体性・低群」に3分割した(図2-15)。

主体的に進路を選択した高3生は、高校生活に対する自己評価が高い

高校生活を振り返って自己評価をしてもらったところ、8割以上の高3生が「高校3年間で自分は成長した」「高校3年間の生活に満足している」と回答している（「とてもあてはまる」+「まああてはまる」）。また進路選択における主体性別にみると、主体的に進路を選択した高3生ほど、高校生活に対する自己評価が高い。一方で「社会問題について真剣に考えた」という回答は4割（「とてもあてはまる」+「まああてはまる」）にとどまっており、進路選択における主体性の高低に関わらずその割合は低い。

Q 高校生活の3年間で振り返って、次のことはどれくらいあてはまりますか。

図3-1 高校生活に対する自己評価(全体)

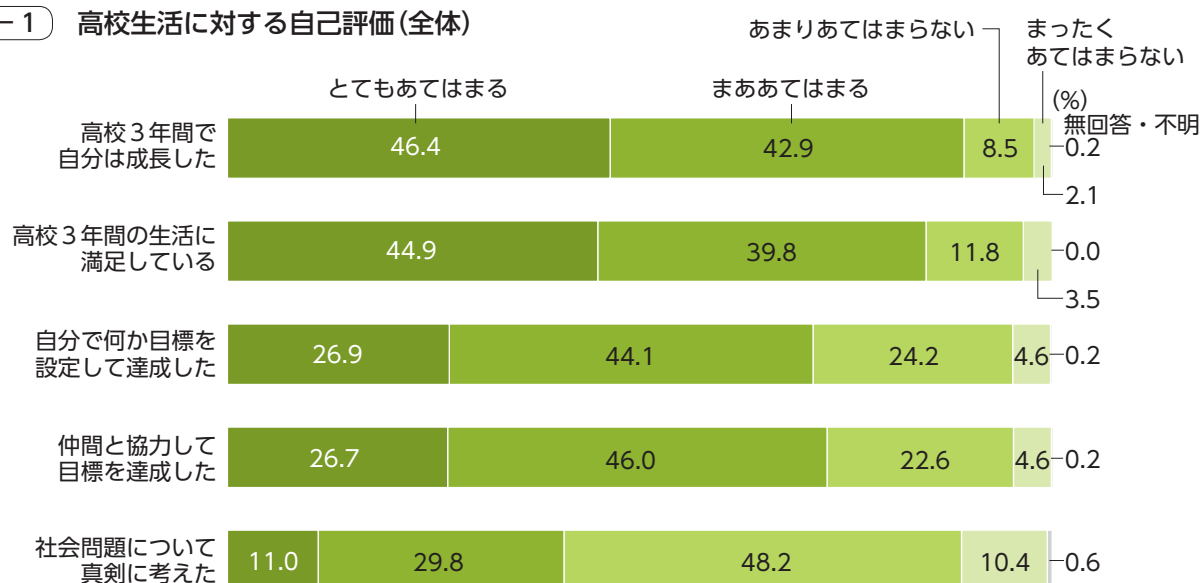
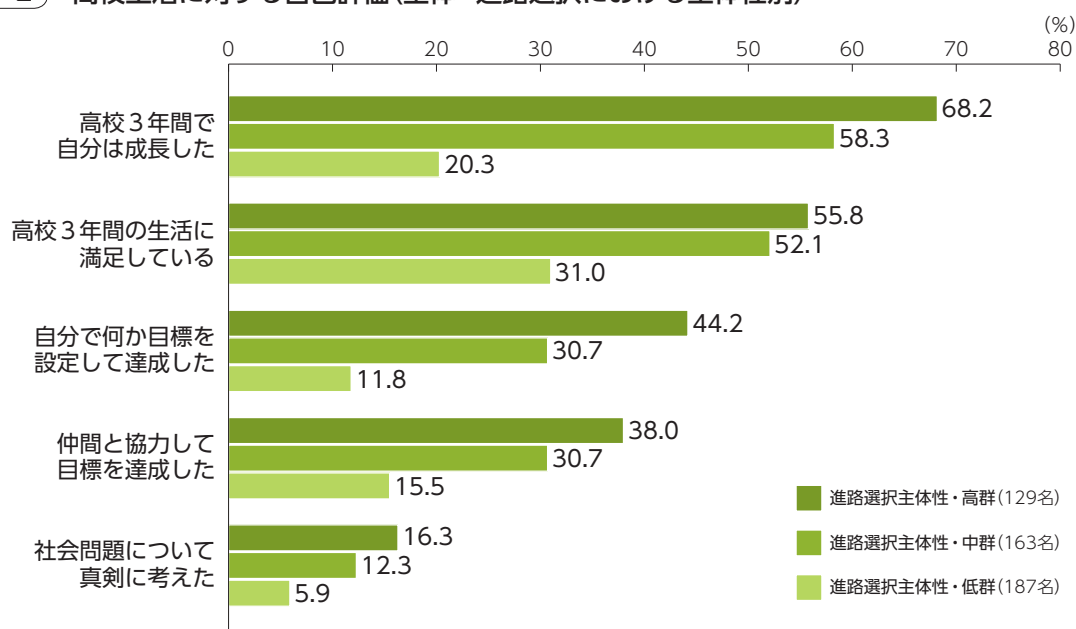


図3-2 高校生活に対する自己評価(全体・進路選択における主体性別)



注1 「進路選択主体性・高群」「進路選択主体性・中群」「進路選択主体性・低群」の分け方はP15の図2-15を参照(図3-2)。

注2 「とてもあてはまる」の% (図3-2)。

7割以上の高3生が「社会のために貢献したい」と考えている

自分の将来についてのイメージを尋ねたところ、9割以上の高3生が「自分の家族の幸せを大切に暮らしたい」「自分の趣味を楽しんで暮らしたい」と回答している（「とてもあてはまる」+「まああてはまる」、以下同様）。一方で、「出世して高い地位につきたい」「リスクがあっても高い目標にチャレンジする仕事をしたい」「世界で活躍したい」と考える高3生は4割台にとどまっている。また、「社会のために貢献したい」に「あてはまる」と回答した高3生は、「あてはまらない」と回答した高3生に比べて、「進路選択主体性・高群」の割合が高い。

Q あなた自身の将来について、次のことはどれくらいあてはまりますか。

図4-1 自分の将来についてのイメージ(全体)

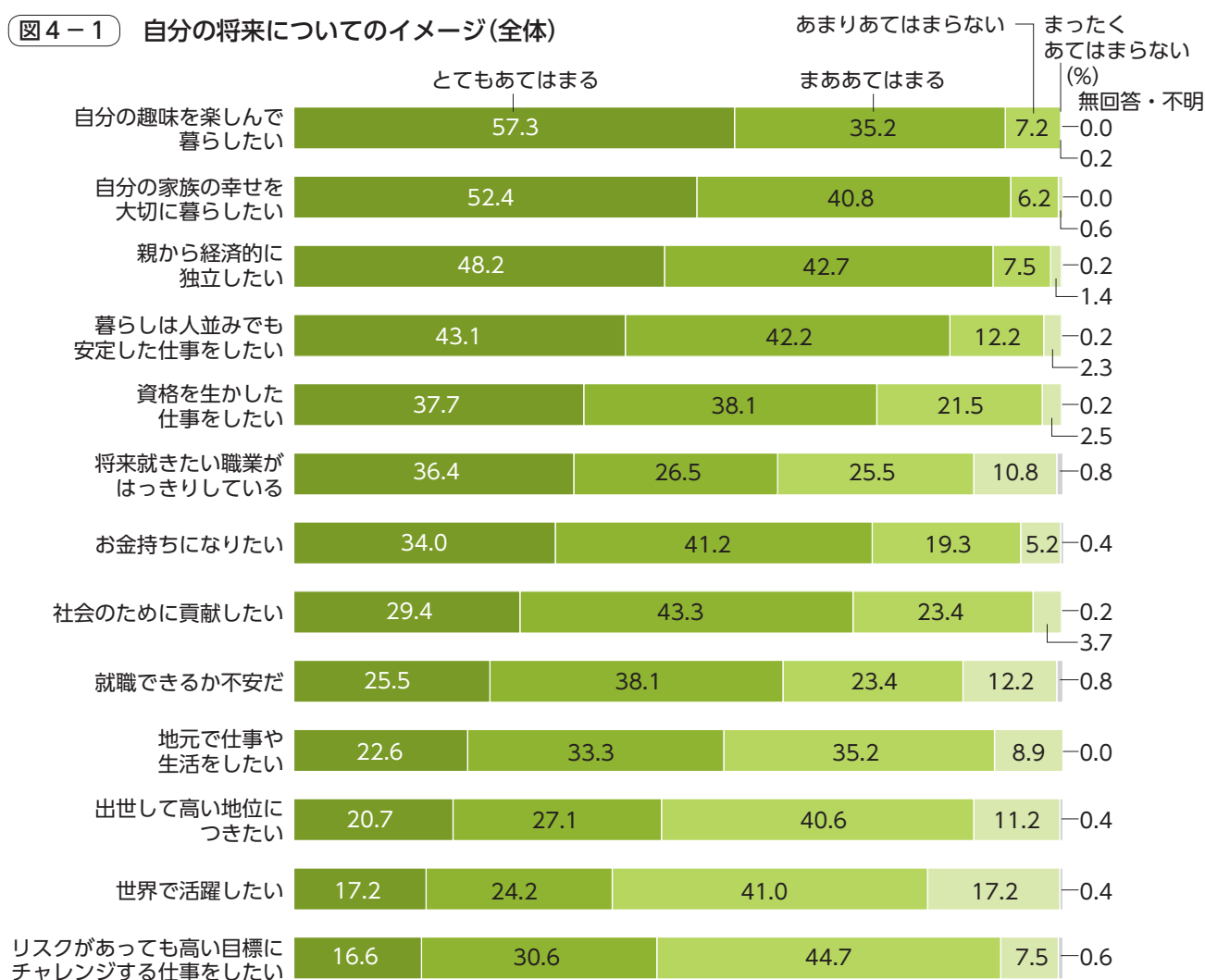
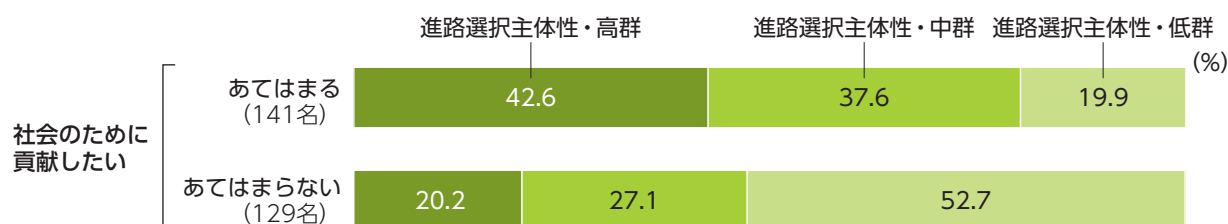


図4-2 進路選択における主体性（「社会のために貢献したい」の回答別）



注 「あてはまる」は「社会のために貢献したい」について、「とてもあてはまる」と回答した人、「あてはまらない」は「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した人。「まああてはまらない」、無回答・不明は省略している(図4-2)。

主体的に進路を選択した高3生は、そうでない高3生に比べて「自立」度が高い

高3生の「自立」度を、「生活」「興味・勉強」「考えること・行動すること」「人との関係」「自分自身・将来」の5つの側面から測ったところ、女子は、男子に比べて、「生活」「興味・勉強」の得点が高い傾向にあった。また、通っている高校の学科別では、専門・総合学科の高3生は、普通科に比べて、「生活」の得点が高く、普通科の高3生は、専門・総合学科に比べて、「人との関係」「興味・勉強」の得点が高い傾向にあった。また、進路選択における主体性別でみると、「進路選択主体性・高群」は、「中群」・「低群」に比べて、どの項目の得点も高い。「自立」度が高い高3生は、進路選択を主体的に行っており、また、進路選択を主体的に行うことで「自立」度が高まっているのではないかとと思われる。

Q あなたは、ふだん、次のことをどれくらいしていますか(できていますか)。

図5-1 「自立」度(全体)

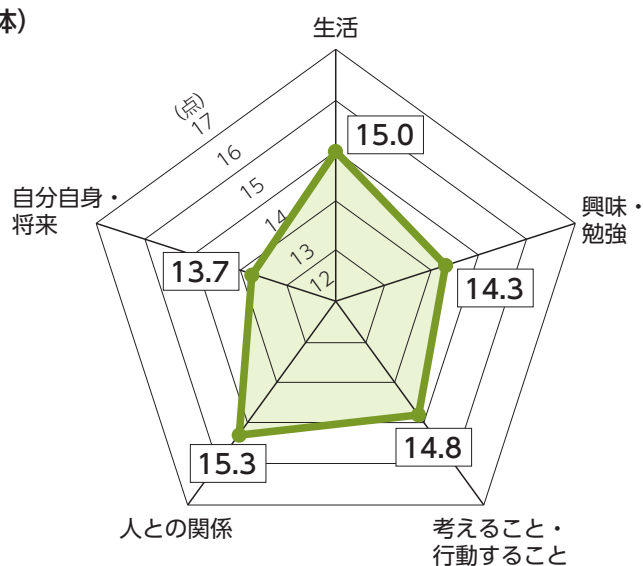


図5-2 「自立」度(性別)

① 男子(212名)

② 女子(266名)

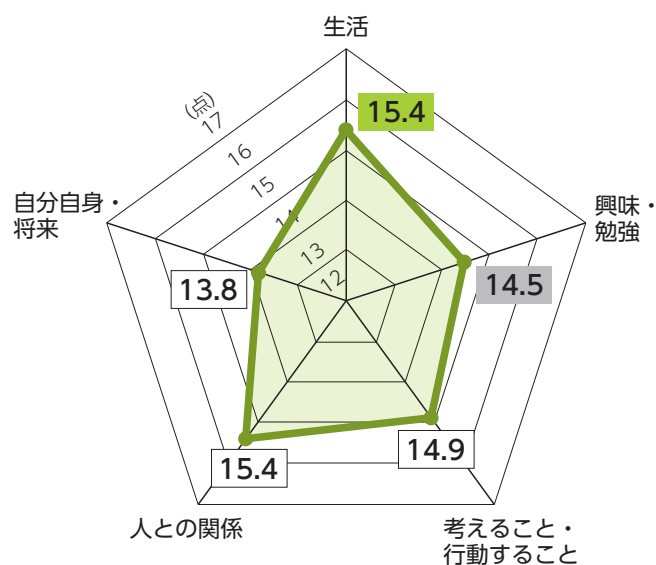
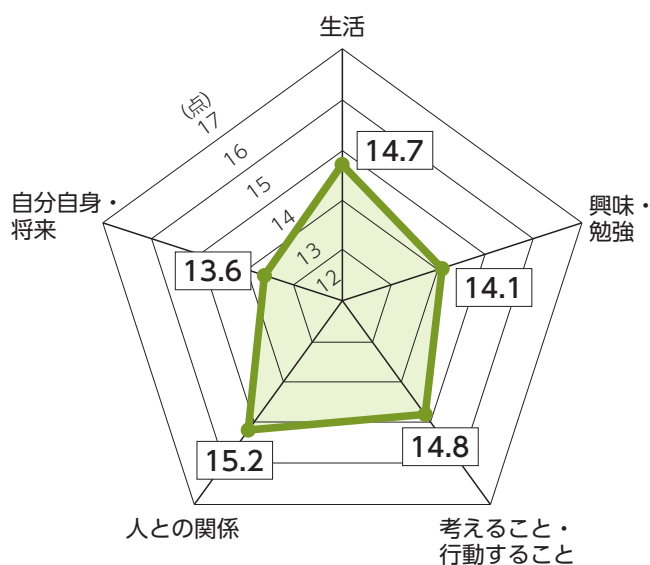
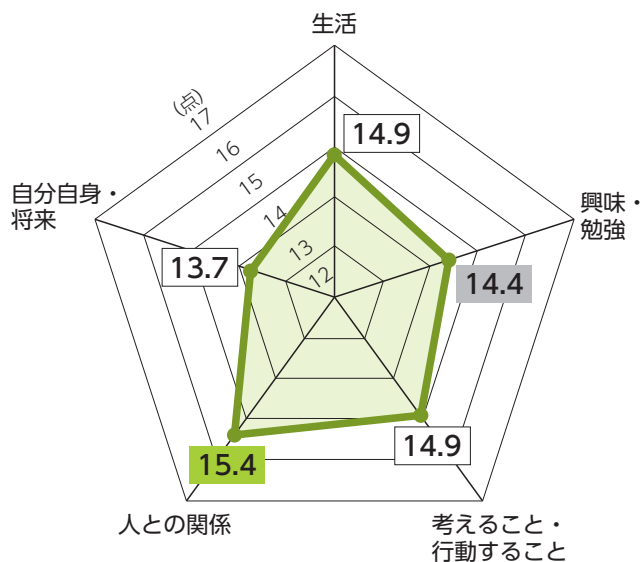


図5-3 「自立」度(学科別)

① 普通科(382名)



② 専門・総合学科(59名)

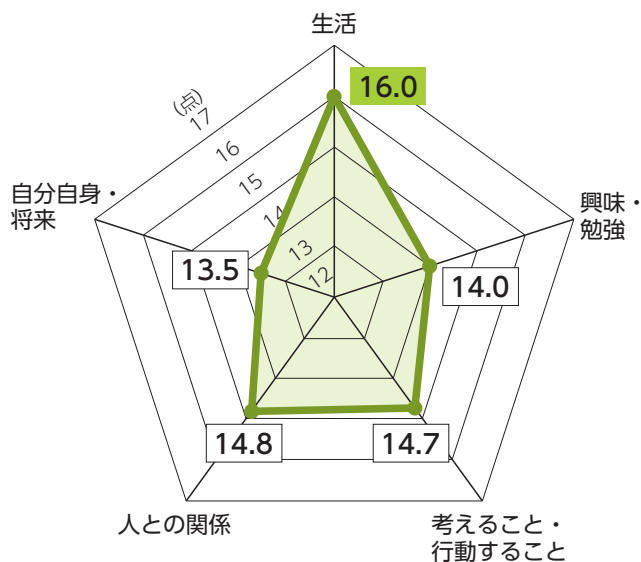
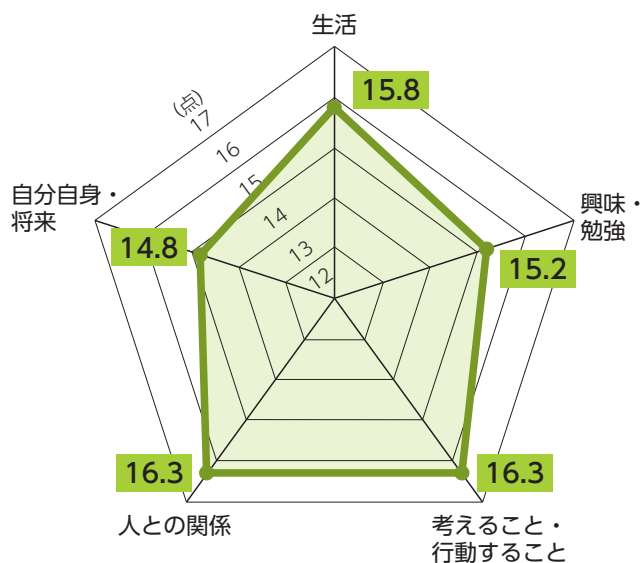
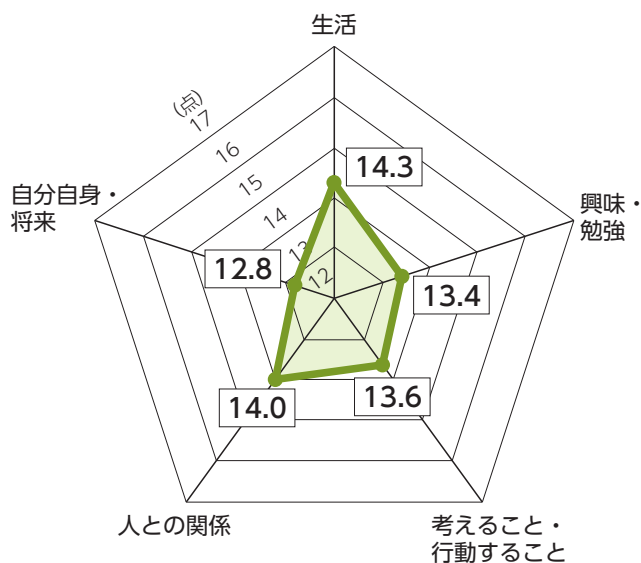


図5-4 「自立」度(進路選択における主体性別)

① 進路選択主体性・高群(129名)



② 進路選択主体性・低群(187名)



注1 高3生の「自立」度を、「A. 生活(決めた時間に起きること、整理整頓、お金のやりくりなど)」「B. 興味・勉強(興味を持ったことの深め方、勉強へのやる気、難しい問題への取り組み方など)」「C. 考えること・行動すること(自分の意見のまとめ方、自分のアイデアを出すこと、意思決定など)」「D. 人との関係(人の話を聞くこと、自分の意見を伝えること、他者と協力することなど)」「E. 自分自身・将来(新しいことへの挑戦、社会問題への関心、将来やりたいことなど)」の5つの側面から測った(各5項目、合計25項目)。数値は、各項目に、「1(できる・する)」～「4(できない・しない)」の4段階で回答してもらったものを逆転して得点化し(1～4点)、A～Eごとに合計して(5～20点)平均を出したものの(5「使っていない」を含む5段階で回答してもらった1項目は逆転して0～4点に得点化)。25項目のどれかが無回答のケースは除いている(図5-1～図5-4)。

注2 属性間で0.5点以上点数が高いものには数値に緑色のアミカケを、0.3点以上0.5点未満のものにはグレーのアミカケをしている(図5-2～図5-4)。

注3 「進路選択主体性・中群」の図表は省略している(図5-4)。

「高校生活と進路に関する調査」

調査企画・分析メンバー

プロジェクト代表者

- 石田 浩 (東京大学社会科学研究所教授) / ●谷山 和成 (ベネッセ教育総合研究所長)

プロジェクトメンバー

- | | |
|---------------------|---|
| ●耳塚 寛明 (お茶の水女子大学教授) | ●木村 治生 (ベネッセ教育総合研究所副所長、
主席研究員・東京大学客員准教授) |
| 秋田 喜代美 (東京大学教授) | 邵 勤風 (ベネッセ教育総合研究所
初等中等教育研究室室長、主任研究員) |
| 松下 佳代 (京都大学教授) | 橋本 尚美 (ベネッセ教育総合研究所研究員) |
| 佐藤 香 (東京大学教授) | 木村 聡 (ベネッセ教育総合研究所研究員) |
| 有田 伸 (東京大学教授) | 吉本 真代 (ベネッセ教育総合研究所研究員) |
| 藤原 翔 (東京大学准教授) | 太田 昌志 (ベネッセ教育総合研究所特任研究員) |
| 香川 めい (東京大学特任助教) | 渡邊 未央 (ベネッセ教育総合研究所研究スタッフ) |

※所属・肩書きは、発刊時のものです。

本プロジェクトのWEBサイトのご案内

本プロジェクトや本調査に関しては、以下のWEBサイトに掲載しています。

ベネッセ教育総合研究所：<http://berd.benesse.jp/special/childedu/>

東京大学社会科学研究所：<http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/clal/>

● お問い合わせ先 ●

本ダイジェスト版に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

(株)ベネッセホールディングス ベネッセ教育総合研究所「高校生活と進路に関する調査」係
TEL：042-311-3390 (10：00～12：00、13：00～17：00 / 土日・祝日を除く)

ベネッセ教育総合研究所 初等中等教育研究室のWEBサイトのご案内
各種調査データに関しては、<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/>

ベネッセ 初等中等

検索

で検索してください。

「高校生活と進路に関する調査」ダイジェスト版

発行日：2015年11月18日 発行人：谷山 和成 編集人：木村 治生

発行所：(株)ベネッセホールディングス ベネッセ教育総合研究所

編集協力：(株)ジー・アンド・ピー

5HNB04

©Benesse Educational Research and Development Institute

無断転載を禁じます。